

コラム 2024 年に取組を開始した事例

地域を守る！

▶普及啓発・人材育成

意識の向上、知識・ノウハウの普及を図る

004

若者世代の防災意識向上のための 親子で学ぶ体験型防災デイキャンプ

取組主体

みらい子ども会

「GAKUMABI（がくまび）」

従業員数

5 人

想定災害

全般

実施地域

岡山県倉敷市

楽しく親子でアウトドアを体験しながら防災を学べる場を提供することで、子どもたちなど若い世代の防災への関心を高め、地域の防災力とレジリエンスの向上に寄与している。

1 取組の概要

子どもの居場所づくりを通じてみんなを笑顔に

- ・みらい子ども会「GAKUMABI（がくまび）」は、2018 年に発生した西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市真備町にて、岡山県内外の大学生が「子どもの居場所づくり」を目的に 2019 年に立ち上げたボランティア団体であり、親子で学ぶ防災活動を 2024 年から実施している。
- ・同会は学生が主体となり、被災した真備町の子どもたちや保護者、地域の人の声を聞きながら、多世代交流や様々な新しい体験を通して、子どもが地域を居場所と思えるようになってもらうための活動を実施している。地域の声を最優先にし、「まなぼう」「あそぼう」「つながろう」の 3 つのテーマを中心に、学生をはじめ地域と連携しながら、子どもや大人に向けて年間を通じた様々な遊びや学びの企画を行っている。

2024 年度 がくまび(小学生向け) 活動計画

計画に今後考慮していきたいイメージ

自分なりに考えて行動する

コミュニケーション力

色々な人と話す

地域との重なり合い(川辺ではかわべつ子支援部)

キッズニア真備版?

SNS、ホームページでの情報発信

理解者・協力者を増やす

生きる力

川辺以外での活動実施

保護者(大人)の興味・学び

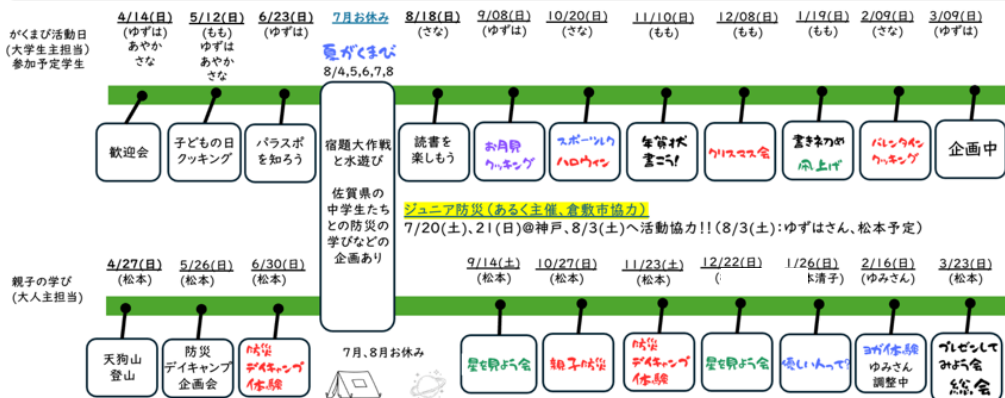
計画に今後追加したいアイデア

お誕生会

ミニキャンプ

デジタル・ストーリー・読書力付けよう

農業体験してみよう



小学生向けの活動計画

- ・一般的に防災の備えに関する活動は多くあるものの、具体的な防災活動への参加や行動となると多くの方にとってハードルが高い印象がある。それは、西日本豪雨を経験した真備町でも同じであった。そこで、同会では、子どもたちにとって楽しい活動であるアウトドアを通じて、親子で防災を学ぶ活動を 2024 年から実施している。
- ・初回(2024 年 6 月)では、河川敷での BBQ(バーベキュー)やおやつづくりに加えて、簡易トイレを体験できる企画を行った。楽しく親子でアウトドアを体験しながら防災を学べる時間を提供している。



アウトドア体験を通じた防災学習の様子

2 取組のきっかけと想い

- ・同会代表は、真備町で防災活動に関わっているが、防災イベントを開催した際、年配者の参加率は比較的高いものの、若い世代の参加率はまだまだ低いと感じていた。若い世代の参加率を高めるためには、子どもたちへのアプローチがとても重要であると考えた。
- ・加えて、西日本豪雨の際に災害を経験した真備町の子どもたちでさえも、防災を学ぶ機会が多くないことも課題であった。将来を担う子どもたちと防災の距離が遠い現状を変えるため、子どもや若い世代にとって防災を身近なものとし、地域における将来の防災力や生活力、災害時の支援を受け入れる力としての受援力を身に付けていくための最初の一步として、身近なところから防災を学べる活動を始めた。

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性などで工夫した点等）

参加のハードルを下げる工夫

- ・取組の初年度である 2024 年は、子どもたちに向けて「BBQ を親子でやろう」という呼びかけを行った。特に各家庭の父親が主体となって楽しめるよう、シンプルに子どもたちとアウトドア（BBQ）を楽しむ企画として周知し、参加のハードルを下げる工夫を行った。これにより、同じ町内でも会話がなかった男性同士の交流が生まれた。

日常会話に防災の話題を取り入れる工夫

- ・災害時の備えが日頃から会話の話題として上るよう、BBQ 会場に災害用の簡易トイレを設置した。その使用感を実際に体験してもらうことで、使いやすさ・使いにくさについての意見交換ができるようにすることを狙った。

4 取組の効果

防災デイキャンプの効果

- ・親子で BBQ を楽しむ企画を通じて防災を学ぶ本取組は、子ども・保護者の満足度も高く、また、災害用の簡易トイレをきっかけとして防災備蓄への関心を高めることができたと考えている。

防災デイキャンプを通じた活動の広がり

- ・西日本豪雨後、復旧・復興などの地域活動に関わる男性の数は、地域活動に参加する女性の数に比べて少なかったが、同会の活動に地域の父親が協力してくれる機会が増えてきた。子どもの保護者同士のコミュニティやコミュニケーションが希薄化している状況において、これは非常に重要な取組の効果と受け止めている。子どもの成長や学びを支えるために、保護者同士の交流が増えることは大切である。また、同会に協力している保護者は年代が若いため、実行体制の若返りにも貢献している。

周囲の声

- ・「最近、特にコロナ禍以降、子どもと外で遊ぶ機会が減っているのでとても楽しめた」（防災キャンプ参加保護者）
- ・「簡易トイレの備えを今まであまり考えていなかったので勉強になった」（防災キャンプ参加保護者）

担当者の声

- ・防災活動は、個人レベルの防災意識が高くなるほどよいものの、ストイックな取組を求めると多くの方が疲れてしまい、かえって防災意識から遠ざかってしまうおそれがあります。
- ・そのため、防災意識を向上させるに当たっては、日常の中に自然に落とし込んでいけることも重要です。そして、継続的な日常行動にするためには、楽しむ側面が何より欠かせないと考えています。
- ・災害時に命と生活を守る備えではありますが、継続的に日常生活に取り入れていくために、楽しむ視点を忘れずに取り組みたいと思っています。

問合せ先

みらい子ども会 「GAKUMABI（がくまび）」
E-Mail : gakumabi@gmail.com URL : <https://gakumabi.com/>
Instagram : https://www.instagram.com/gakumabi_0623/

動画

—

サイト URL

